（様式－3）

再発防止対策書

中部支部

発生日時	令和 6年 4月12日（金曜日） 10 時 01 分						天候	晴れ		
災害の程度	死亡 名		負傷 1名		基礎工		年令50才		経験年数28年	
工事の種類	調査測量	伐採	運搬	仮設	基礎	組立	足場	架線	撤去	その他
災害の種類	墜落・転落	転倒	物の飛来・落下		崩壊・倒壊	はさまれ・巻き込まれ	切れ・こすれ		感電	その他
原因	作業準備の不良	作業方法の不良	工具防具の不良	電気工作物の不良	作業者の過失	共同作業者の過失	その他			
設備	電圧 154kV	1 回線	電線160㎟ 単導体	地線 70㎟ OP1条						

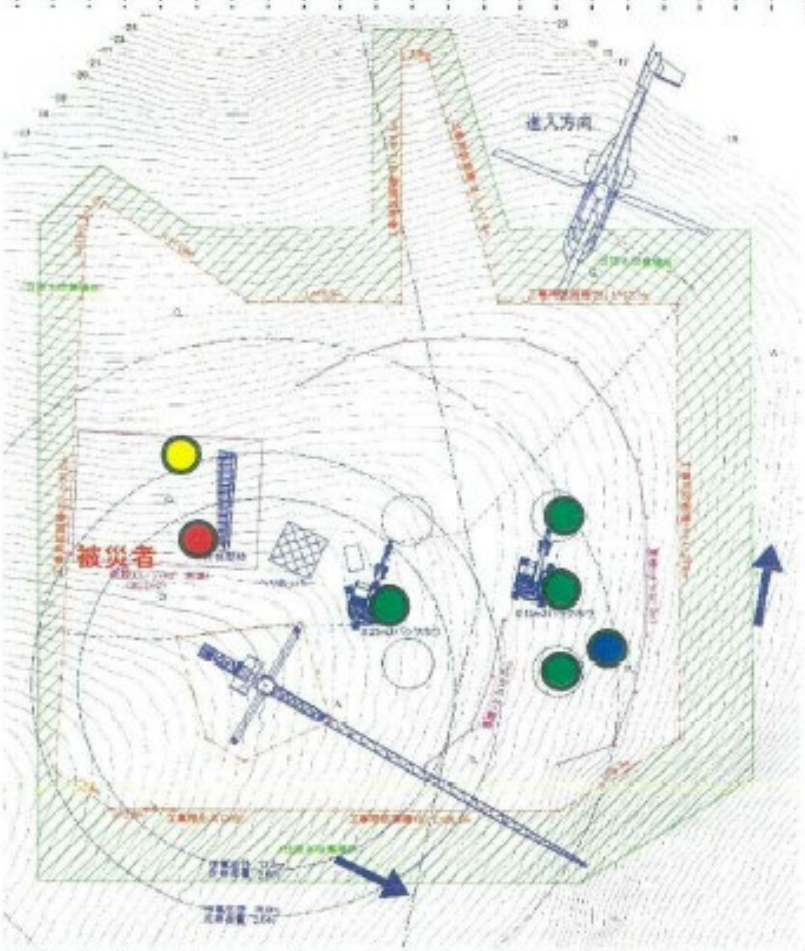
災害の状況	【件名】 ヘリコプター運搬による基礎コンクリート打設時の作業員負傷
	【発生状況】
	ヘリコプターが工事敷に到着した際、ヘリコプターからのダウンウォッシュ
	（吹き下ろしの風）により、ステージ上に4段積されていた柱体鋼製型枠のうち
	最上段の型枠（140kg/枚）が浮き上がって回転し、被災者の左膝下に当たり
	負傷した。
	【被災程度】
	左下腿挫創（感染予防抗生剤点滴のため入院）
	【服装・装備】
	安全帽、作業服、ヤッケ、安全長靴、ゴム手袋
原因及び対策	【原因】
	（1）連結した柱体鋼製型枠（140kg）がヘリコプターのダウンウォッシュで
	浮き上がって回転した。
	※1 柱体鋼製型枠はフランジがあり、重ねておくと風が入る隙間ができやすい
	構造であった。
	※2 重い物であってもヘリコプターのダウンウォッシュ(30m/秒レベル）により
	飛散する可能性がある。
	（2）被災者は浮き上がった柱体鋼製型枠を手で押さえようとした。
	【再発防止対策】
	（1）ヘリコプター物輸時、工事敷内に柱体鋼製型枠を置く場合は飛散防止対策
	（ワイヤー・ロープ・番線等による固縛、モッコ掛け等）を実施する。
	（2）ヘリコプター物輸時、飛散物や荷崩れ等の予兆があった場合、巻き込まれ
	ないよう直ぐに退避する。

（注）1. 「人身災害報告要領」に基づいて記載するものとし、「工事の種類」「災害の種類」「原因」については該当項目に○印を付ける。

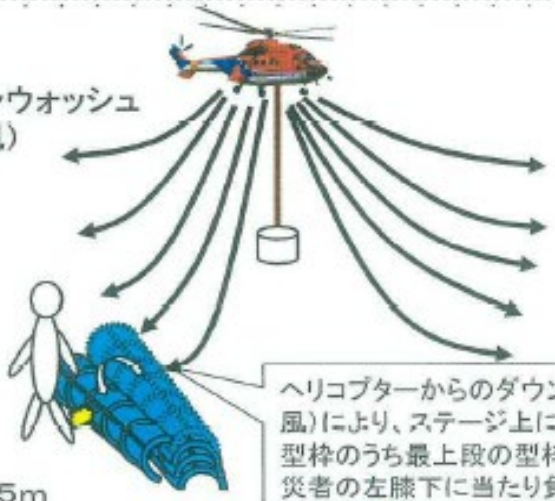
2. 災害状況の説明と共になるべく図面を添付すること（様式－2）。特に感電の場合は支持物、電線の離隔距離その他寸法を記入する。

（様式－2）

災　害　概　要　図



【凡例】
- ●：被災者
- ●：現場監督者
- ●：JV社員
- ●：作業員



型枠重量約140kg
型枠長さ約6．5m
型枠積上げ高さ約0．5m

ヘリコプターからのダウンウォッシュ（吹き下ろしの風）により、ステージ上に4段積されていた柱体鋼製型枠のうち最上段の型枠が浮き上がって回転し、被災者の左膝下に当たり負傷した。

イメージ図